



なおも続く新型コロナウイルス JR東日本 仕事を行う中での現実と不安

新型コロナウイルスの拡大を受けて発せられた緊急事態宣言も全国で解除となり、徐々に通常の生活が戻りつつあります。しかし東京都で再び感染者数が増加傾向に転ずるなど、いまだ完全収束には至っていません。

そのようななか、業務を行う上で社員・組合員からは不安の声がまだまだ多く届けられています。職種や職場をこえてどのような悩みや不安があるのかを共有していきましょう！

各職場では さまざまな不安の声が

- 県を跨がざるを得ない業務を理由に人間ドックが受診できなかった。構内歩行時や詰所待機時、特に食事のときは近くにウイルスが潜んでいるようで気が休まらない
- 帰宅後、子供から「遊ぼう」と言われても「接触して大丈夫だろうか？」という心配・不安を常に抱えている。間接的に家族にも同じリスクを負わせていることが悩み
- 現金の受け渡しや、お客さまと正対しての接客に不安を感じる
- 見習いをつけて常に2人で作業をしているので、どうしても3密を避けることが出来ない
- 自宅待機が解除となった。病気療養中の身なので満員電車での通勤は不安。身の危険を感じてまで職場に通わなければならないのだろうか
- 車内が混雑することが多くなってきた。明らかな3密状態であることに不安を拭えないまま乗務をしている

安全・安心な環境の実現に向け団体交渉を開催

新潟地本は、社員・家族の命と生活を守るために申し入れ、団体交渉を行ってきました。

- 感染拡大が収束するまで人事異動は必要最小限とすること
- 妊娠中、病気加療中でテレワークを希望する社員の申請を認めること
- 短時間行路の前後のその他時間は自宅待機とすること など…

鉄道運行が確保されていればそれで良いのか？

JR労働者はエッセンシャルワーカーだ！

社員と家族を守れる労働環境をつくり出そう！

